
喫茶店「アリーヴェデルチ」

黒葉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

喫茶店「アリーヴェデルチ」

【Nコード】

N4584F

【作者名】

黒葉

【あらすじ】

喫茶店「アリーヴェデルチ」で、マスターの秋原さんと、高校生の月宮さんが楽しく過ごすゆったりとした物語。会話のテーマは「化ける」日常の色々な化けるについて、二人がボケと突っ込みを入れながら話します。

喫茶店「アリーヴェデルチ」

秋原さん アリーヴェデルチのマスター。

月宮さん 高校生の女の子。常連さん。

喫茶「アリーヴェデルチ」。直訳すると、「さよならだ」となる喫茶店にあるまじき店名のお店。けれども地元の隠れた名店として、ひそかに有名だと言うから世の中分かります。

今日も今日とて、一人のお客さんが勢いよく扉を開けます。

「秋原さん！来たよー！」

大きな声を出して入店したのは、近くの高校に通う女の子、月宮さんです。ボーイッシュなショートカットと、童顔が実によくマッチして、ずいぶんと幼く見える人です。

「いらつしゃ・・・なんだ、お前か」

そんな月宮さんに反応したのは、アリーヴェデルチのマスター、秋原さんです。ワイルド風味な顔と、意外と美味しいコーヒーや軽食をだします。女性客に大人気、らしいです。

「唐突だけど、秋原さん。化ける、と言えはなに？」

いつもの席であるカウンター席に座った月宮さんに、秋原さんはカウンターの反対側から、特に意味もなくコップを滑らせて水を出します。

ガガー、と音を立ててコップは滑り、ピタッと正確に月宮さんの前でストップ。なぜか手馴れた動作でした。

「は？なんだよ、いきなり」

そう言いつつも「そうだなあ」と、秋原さんは考えます。ちゃん

と相手をしてあげるあたり、いい人だと思いかけますが、この時間帯は、お客さんが月宮さん以外来ないので、暇だから仕方なく相手をしているだけかもしれません。

「とりあえず、女は化けるな」

「女の人？化けるの？」

答えを聞いた月宮さんは、「うーん？」と首をひねります。どうやら意味が分かっていないようです。まだまだ青いということでしょうか？もう高校生ですけどね。

「ああ。化粧のビフォー・アフターを比べたらな」

魔法その一ですね。男の人である秋原さんが、どこまで分かっているかは疑問ですが、あれって結構手間がかかるんですよ？色々と苦労もある魔法なんですよね。

「えーっと・・・どんな感じ？」

「とりあえず、上手いやつは見分けがつかなくなるくらい変わる。恐ろしく綺麗」

「下手な人は？」

「見分けがつかないくらい変わる。妖怪変化のレベルと言ったら言いすぎだが、イメージならそんな感じだ」

秋原さんの言葉に、イマイチ納得していない月宮さん。化粧したことはないんでしょうね。

まあ、若さで十分カバーしていますよ。まだ必要なさそうです。

「とりあえず、女の人化ける、と」

「男子三日会はざれば、だが、女は一日・・・いや、一時間だ」

男子三日会はざれば、かつもくして見よ、という名言ですね。意味はそのままです。かつもくとは注意深く見ることでですからね。

この名言と並びたてられると、何だかすごい気がしてこなくもありません。

「へえ・・・？」

けれども月宮さん。絶対に意味分かっています。三国志の名言なんて、知っている人のほうが少なくても、十分納得ですけど。

さて、秋原さんは微妙な顔で月宮さんを見えています。化粧姿でも考えているのでしょうか。

あ、目を離しました。はあ、とため息までついています。ダメだったみたいです。

「ねえ、私でも出来るかな？」

きらきらとした目で秋原さんを見上げる月宮さん。純粋な眼差しに、秋原さんは少しだけ迷うそぶりを見せますが、すぐに迷いを振り払い、一言。

「無理だな。身の程を知れ」

強烈な一撃です。

「ひっ、ひどいっ！」

がびーん、と効果音すら聞こえてきそうなほど、ショックを受ける月宮さん。まあ、妖怪変化のイメージを持たれたら無理もないです。

秋原さんもなかなかひどいお人です。

「うっう・・・それで、他に化けるのは？」

立ち直りが早いですね。もう気持ちの切り替えが済んだようです。コロコロと顔が変わって、見ていてあきません。

「そう、だなあ・・・他に・・・あ、お金、とか」

おおっと、流石社会人。お金ときますか。

「お金？何で？」

「少しでも気を抜くと、ワケの分からん下らない物に化けてしまっ
ていてな・・・」

今月も飲みすぎたしなあ・・・と、悲しい顔をする秋原さん。お金にだらしない人なのでしょうか？一応、喫茶店の経営者なんですけど。アリーヴェデルチの明日が心配です。

「よく、わからないよ」

「そうか、チクショウめ」

しかし、月宮さんには分からない様子。見た目に反して、お金にはきっちりしているようです。子供っぽく、お菓子とかにパーツと

使っているかと思いました。

あ、それと秋原さん、女の子、それも年下に「チクショウめ」はないと思いますよ？

ちよつと配慮に欠けますね。

「そういや、魚もそうだな。いや、あれは変わる、か？」

秋原さん、話題チェンジですか。自分から振ったのに。

「そうなの？」

「ああ、出世魚っているだろ。アレだ」（注：名前的な意味で）

出世魚と言いますと、成長するに従って名前が変わる魚ですね。

ボラやスズキ、ブリなんかがそうです。魚にはDHAが豊富らしいので、肉ばかりでなく魚もガンガン食べましょう。

「出世魚？」

「そうだ。知らんのか」

「うん。聞いたことない」

あらら？月宮さんは知らないみたいですね。食べたことはあるでしょうけど。

現代っ子は知らないものなのでしょうか？

「で、でも、名前からおおよそは想像できるかな」

へえ、想像。名前から出来るものですかね、これは。出世魚ですよ？正当に至る想像なんて無理だと思うんですけどね。

さて、どんな珍回答が飛び出すのでしょうか。わくわくしてきました。

「んとね、なんかこう、背中がシュツとしているような・・・」

「シュツ背魚!？」

秋原さんがびっくりして叫びます。まさかシュツ背魚とは。

確かに、背中がシュツと伸びている人は、仕事が出来そうに見えますけど。

「ねえ、あつてる？」

「全然違っわ。っーか、意味不明。成長すると名前の変わるフィッシュのことだ」

「イクラとか？」

それは卵です。違います。

「それは違っだろう。鰯や鱸、鰯なんかがだ」

話を振るだけあって、やっぱり知っていましたか。これで知らなかったら恥ずかしいですけど。

「食べると美味しいよね。好きな魚ばかりだよ。照り焼き美味しいよね」

「俺は煮た方が好きだ」

話がずれてきています。修正してください。食べ物話には加われませんから。

「なんかお腹減ってきた」

「注文しろ。有料提供を約束してやる」

月宮さんはチャーハンを注文しました。

えっと、ここ喫茶店ですよ？チャーハンって・・・まあ、いいですけどね。

注文からしばらくして、チャーハンが完成します。

「ほら、出来たぞ」

「いただきまーす」

運ばれてきたチャーハンを、レンゲを握ってがつつ食べ始める月宮さん。

女の子にしておくにはもったいない食べっぷりです。

ちようど食べやすい熱さのため、止まることを知りません。喉に詰まらせないように、注意してくださいね？

「落ち着いて食べるよ・・・誰も取らないし、チャーハンは逃げない」

「出来立ての美味しさは、出来た瞬間から逃げてくんだよ」

おお、いいこといいですね。そのとおりです。

「そうかぁ？落ち着いて食べても大丈夫とは思うが・・・あ、こばすな」

「あはは・・・急ぎすぎちゃった。とっても美味しいから、このチ

「ヤーハン！」

そう言って。
にっこりと。

最上級の、比較しようもないいい笑顔で。

月宮さんは秋原さんに言いました。

同姓でも見とれそうな、ともすれば光ってさえ見えるほどの満面の笑み。

「・・・っ」

秋原さんは、あわててそっぽを向きます。

真っ赤な顔を隠すように。

「あれー？照れてる？」

「うるさいっ！」

直訳すると「さよならだ」となる店名、喫茶「アリーヴェデルチ」

。

今日も楽しい声が響いていました。

こんなアットホームな雰囲気、人気の秘密でしょうか。

え、私？私ですか？

私はただの、どこにでもいそうな幽霊さんです。

二人とこっそり一人の、ある平日の昼下がりのお話でした。
おしまい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4584f/>

喫茶店「アリーヴェデルチ」

2010年10月8日15時49分発行